

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・「馴染みのある安心できる生活」と掲げた事業所独自の運営理念を職員全員で構築している。</p>	<p>・今まで以上に地域に根ざしたサービスが提供できるように理念を見直し構築していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・毎日、申し送り時に理念を唱和し、</p>	<p>・理念は職員全員が目指すものである事を理解し、毎日唱和することで理念に基づいたケアを実践していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・ホール内の見やすい場所に運営理念を掲示している。 ・過去の広報誌に掲載し、家族や地域に配布している。 ・運営推進会議で説明している。</p>	<p>・新しい運営理念ができた時には、再度広報誌に掲載し、地域の方に理解して頂けるように取組みたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>・散歩の時に地域の方にあつた時には、職員自ら挨拶をするように心がけている。 ・地域の神社のお祭りや盆踊り大会などに参加している。 ・運営推進会議を開催し、町内会長や民生委員と意見交換をしている。 ・地域の中学生のボランティアを受け入れしている。 ・職員2名がキャラバンメイトとなっている。</p>	<p>・町内会長や民生委員を通じて、地域に係わりの多い方々との連携を構築し、地域に貢献していきたい。 ・地域の方に認知症を理解してもらうために、キャラバンメイトとして、認知症サポーターの研修を開催したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・自己評価と外部評価について勉強会を開催し、説明している。</p> <p>・職員ミーティングで、結果を共有し、改善に向けて話し合っている。</p>	<p>・職員一人ひとりが、自己評価を行うことで、業務の見直しだけでなく、ケアやホーム運営などの総合的な視点で判断をする材料として活用していきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・職員会議で話し合い、サービスの質の向上に生かしている。</p>	<p>・運営推進会議では意見が少ない事もあるため、沢山の意見を出せるような体制を作り、活かしていきたい。</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・パンフレット変更時や広報誌発行時に配布している。</p> <p>・こちらから役場へ出向き情報交換を行ったり、電話で相談したり、積極的に機会作りをしている。</p>	<p>・新しい広報誌ができた時には職員が配布するなど、管理者だけでなく、職員も接する機会を増やし、ホーム全体として取り組んでいきたい。</p> <p>・グループホーム協議会を通じて、積極的に意見交換をできる機会を増やしていきたい。</p>
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・権利擁護や成年後見制度に関する勉強会を実施しているが、実際に活用した事例はない。</p>	<p>・継続して取り組んでいきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・虐待の事例などを含めた勉強会を実施し、啓発、防止に努めている。</p>	<p>・ホームで虐待を発見した時の対応方法や報告の流れなどを書面で示し、虐待に対する認識を高めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>・利用者や家族の立場に立って考慮し、説明・対応していきたい。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>・サービスに関するアンケート調査を実施し、積極的に要望や意見を引き出し、顧客満足を目指したい。</p>
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・担当職員が変更する時には、書面にて引継ぎを行っている。</p> <p>・新しい職員を配置した時には、必ず自己紹介をし、1日を通してコミュニケーションをとる時間を作っている。</p>		<p>・配置換えは無いが、離職者を少なくする対策を検討していきたい。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・処遇委員会が勉強会の年間計画を立てている。</p> <p>・全職員が勤務として外部研修に参加できるような体制を作っている。</p> <p>・外部研修後、勉強会にて伝達し、実践に生かすようにしている。</p>		<p>・外部研修を受ける機会を増やし、職員一人ひとりのスキルアップを目指していきたい。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・他のグループホームと合同で行事を行ったり、夏祭りなどに積極的に参加している。</p> <p>・グループホーム協議会に加盟し、積極的に活動に参加している。</p> <p>・他の施設職員の交流を深める為に、年に数回、職員が参加できる交流会を企画している。</p>		<p>・グループホーム間だけではなく、他のサービスの介護従事者とのネットワーク作りを行っていきたい。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・日常的に職員とのコミュニケーションの時間を大切にしている。</p> <p>・親睦会などを行っている。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・運営者が定期的にホームへ来て、職員の勤務状況を把握している。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・サービス利用の相談があった時には、直接家族と話し合いを行っている。</p> <p>・早急に入所を希望し、当ホームが満床の場合は、空いている事業所を探し、紹介するように対応している。</p>	<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・相談時のニーズを把握し、どのようなサービスが必要か判断している。</p> <p>・他のサービスが必要な時には、担当ケアマネジャー等と相談し対応している。</p>	<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・サービスを利用するにあたり、利用者や家族に説明し納得の上で、生活状況や人間関係などのアセスメントを詳細に行っている。</p> <p>・安心して生活に馴染めるように、交流の場を設けたり見守りを行っている。</p> <p>・担当職員を設け、責任を持って対応できるようにしている。</p>	<p>・新規入居の際には、職員の人数を増やし、余裕をもって対応できる体制を作っていきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・職歴や生活歴を基に生活の中でお互いに学ぶ機会を作っている。</p> <p>・グループワークを通じて喜怒哀楽を共有している。</p>	<p>・その人自身をよく理解するためにも、会話の中から情報を収集し、職員全員で共有し実践できる場面を増やしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時に話しをしたり、電話で情報を共有し、同じ視点から一緒に支え合う関係を築いている。 ・必要に応じて協力して頂くように、		・面会の機会の少ない家族には、家族参加の行事を増やす等、本人と会う機会を増やしていきたい。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・毎月ホーム便りにて生活の様子を伝えている。疎遠の家族に対しては、行事への参加や面会などを書面にて促している。 ・病院受診の際に家族に付き添いを依頼したり、極力面会の機会を増やすようにしている。		・継続して取組んでいきたい。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・アセスメントで馴染みの人や場所を把握している。また、場所や人を写真に撮り、情報を共有している。 ・年賀状や暑中見舞いを出している。 ・自宅や自宅付近へドライブに出かけたりしている。		・継続して取組んでいきたい。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・共同生活において、役割や生きがいを持ちながら協力して生活できるように支援している。 ・トラブルになりそうな時には、職員が対応し、良好な関係が保たれている。		・継続して取組んでいきたい。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・実際に積極的な関わりを必要とする利用者や家族のニーズに対応した事は無いが、困った事あったら連絡して頂くように、退所時に説明している。		・継続して取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1.一人ひとりの把握</p>			
30	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・センター方式にてアセスメントを行い、利用者の言動からニーズを把握して、本人の立場に立ったケアプランを作成している。 ・ニーズの把握が難しい方は、職員全員で話し合い、ニーズを引き出している。</p>	<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居時に家族へ説明し、出来るだけ利用者のライフスタイルを把握できるように情報収集を行っている。また、その際は事務所で行い、プライバシーに配慮している。</p>	<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・毎日の生活状況を記録し、職員が情報を共有している。また、申し送りをすることで、総合的に把握するように努めている。 ・生活訓練等の活動を通じて、各入居者の能力の把握に努めている。</p>	<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・3ヶ月毎に担当職員がセンター方式によるアセスメントを行い、カンファレンスにおいて、意見・情報交換をし、行個別に介護計画を作成している。 ・面会時や、ケアプラン説明時に家族から意見を聞いている。</p>	<p>・情報量が多い為、詳細な情報を全て共有し、把握する事ができる体制を整えたい。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・1ヶ月毎に評価をし、ケアの見直しをしている。 ・3ヶ月毎にアセスメントをして介護計画を見直しているが、状態やニーズに変更があった時には、その都度新しい介護計画を作成している。</p>	<p>・継続して取組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の生活の様子や気付きを具体的に記録し、情報を共有している。 ・その情報を基に、アセスメントを行っている。		・継続して取組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族が受診の付添いや外出に対応出来ない時には、職員が付添って支援している。 ・家族の介護の負担を軽減するため、訪問診療を行っている。また必要時には訪問看護を利用している。		・継続して取組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・定期的に地域の図書館を利用している。 ・広報誌を発行した際に、警察や消防、保育園、小・中学校、介護施設へ配布し、理解を求めている。 ・消防隊員の指導のもと、消防訓練を実施している。		・地域のボランティアを活用し協力体制を強化したい。
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・担当ケアマネジャーと連絡を取り、情報交換を行っている。		・職員全員で地域の社会資源を把握し、他のケアマネジャーやサービス事業者との連携を深めていきたい。
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・必要な時に気軽に相談できるように、日頃から連絡体制を密に行っている。		・認知症サポーター講座の開催を含め、地域に貢献できる活動を通じて、更に連携を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時に受診状況を確認し、利用者や家族が希望する医療機関に受診するようにしている。 ・協力医療機関やかかりつけ医にはその都度相談できる体制である。 ・受診状況は毎月のホーム便りにて家族へ報告している。		・継続して取組んでいきたい。
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力医療機関に認知症専門医を確保している。また、いつでも相談できる体制である。		・継続して取組んでいきたい。
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・常勤で看護師を配置し、日常的な健康管理と相談ができる体制である。 ・24時間オンコール体制をとっている。		・継続して取組んでいきたい。
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院先の病院と電話で連絡を取ったり、お見舞いの際に看護師より状況を確認し、家族と連絡を取っている。また、病院から家族へ連絡があった時には直ぐに連絡を頂くように話している。		・継続して取組んでいきたい。
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合や終末期における対応の指針を掲げ、家族の意向を踏まえた上で方針を決定する体制がある。		・継続して取組んでいきたい。
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・事例は無いが、体制は整えている。		・継続して取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・入所後しばらくの間は頻りに面会に来てもらったり、自宅で使用していた慣れ親しんだ物を使用するようにしている。 ・本人の表情や行動を観察し、すぐに対応できるように心がけている。		・継続して取組んでいきたい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者の表情や状況を見極めながら声がけや対応を行っている。 ・入浴介助やトイレ介助の際には羞恥心に配慮している。 ・記録等の個人情報は設置場所を決めプライバシーに配慮している。		・勉強会を開催し、個人情報の取り扱いについての正しい知識を身につけ、実践に活かしていきたい。
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・強制ではなく、自分で決める事が出来る場面を作ったり、声がけを行い、自己決定を促している。		・継続して取組んでいきたい。
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課の目安となる時間は決まっているが、食事や入浴時間、外出など一人ひとりのペースで生活できるように支援している。		・再度業務を見直し、利用者のニーズに柔軟に対応できる体制を整備していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・洋服を自分で選べるようにハンガーに掛けている。 ・本人の化粧品を準備している。 ・髪を染めたい方には、支援をしている。		・継続して取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事配膳後にメニューを読み上げている。 ・職員も一緒に食事をしたり、食事介助の職員が楽しい雰囲気作りを行っている。 ・個々の能力に応じて食事の準備や後片付けを一緒にやっている。		・「おいしかった」「味が薄かった」など普通に話せる雰囲気作りを行っていききたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・利用者一人ひとりの嗜好品を把握し、食事のメニューに取り入れている。 ・水分補給時、好みの飲み物を提供している。 ・外出先での食事は好きな物を食べるように支援している。		・継続して取組んでいきたい。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄記録にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立や保清についてカンファレンスで話し合い実践している。		・継続して取組んでいきたい。
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴日は決まっているが、利用者が希望する時間に入浴できるようにしている。また、入浴日以外に入浴希望がある場合も対応できる体制である。		・継続して取組んでいきたい。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・睡眠時間や休息時間を記録し、睡眠・休息パターンを把握している。 ・快適に安眠できるように、入浴日以外の毎日、足浴を行っている。		・昼夜逆転をしている利用者はいないが、居ることを想定した支援についても検討していききたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・入居時に利用者や家族より情報を聞き、ある程度は把握している。 ・カンファレンスにて、一人ひとりに合った役割などを話し合い、職員間で情報を共有し、実践している。		・利用者一人ひとりの役割を把握し、継続的にチームで対応できる体制を整備したい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・自分で金銭管理をしている利用者は、起床時と就寝時に職員と一緒に金額の確認を行っている。</p> <p>・買い物代や食事代は自分で支払いを行うように支援している。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・買物や職員の外出の機会に、気分転換も含めドライブ等を行っている。</p> <p>・個別に外出の希望がある時には、出来るだけ希望に沿うように対応している。</p>		<p>・一人でも安全に外出できるような環境を作れるように、地域住民に働きかけたい。</p>
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>・日常的な会話から引き出している。</p> <p>・行事等で家族と一緒に外出する機会を設けている。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・電話の希望がある時には、ホームの電話で対応している。また、必要に応じて介助をしている。</p> <p>・年賀状や暑中見舞いを出している。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>・面会の際には、ご本人様へ話しをする場所を確認をし、どの場所においてもプライバシーに配慮し、対応するように心がけている。</p> <p>・お部屋で過ごす時には、テーブルと人数分の椅子を準備し、お茶とお菓子を出してもなしている。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束についての勉強会を実施している。</p> <p>・身体拘束を行った事例はないが、必要な場合の対応方法はある程度理解している。</p>		<p>・再度、勉強会を開催し理解を深めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関の鍵は、夜間帯の決められた時間以外は開錠している。 ・玄関にセンサーを取り付け対応している。 ・居室のドアに鍵はついていない。 ・日常的に散歩に行き、地域の方に入居者の顔を覚えてもらうようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・朝の開錠を忘れていたことがあるため、時間厳守と必要時の開錠を徹底して行っていきたい。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・常に利用者の所在や様子を確認、把握し、職員同士で連携しあう体制になっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・保管場所に関して取り決めがあり、環境委員会・食事管理委員会・医療管理委員会にて管理している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者において、日常的に想定されるリスクを話し合い、対応できるように心がけている。 ・リスクマネジメントに関する勉強会を実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・行方不明時の対応について不備な点が多い為、マニュアルなどを整備していきたい。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応マニュアルがあり、緊急時でも見やすいように掲示している。 ・全ての職員が救急救命の講習を受けている。 ・管理者は応急手当普及員の資格を持ち、勉強会を実施している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取組んでいきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日中・夜間を想定し、利用者参加による避難訓練を実施している。 ・消防隊員の指導の下で消防訓練を実施し、協力体制を構築している。 ・地域のお祭りなどで、日頃から消防団と交流がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・非常袋を購入し、万が一の時にも対応できるように備えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>・勉強会を開催し、便秘時の対応について理解を深めていきたい。</p>
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>・栄養バランスを確認し、メニューを見直していきたい。 ・食事摂取量を個別に把握し、再度見直しを行ってほしい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症の予防・対応マニュアルがある。 ・外部研修に参加したり、マニュアルに基づき勉強会を行っている。 ・インフルエンザに関する情報を家族へ文書で通知している。		・感染症の流行する時期に合わせ勉強会を実施し、対応策や予防策を再確認できるように取り組み、意識を高めていきたい。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所や調理器具を清潔に保つ為の取り決めがあり、定期的に清掃を行っている。 ・食材は3日～4日前に購入し、余りを出さないようにしている。		・継続して取組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・花の咲いたプランタを設置したり、季節毎に表札を交換し、明るい雰囲気作りをしている。 ・利用者と一緒に、定期的に玄関清掃を行ったり、草取り、雪かき等も行っている。		・冬期は玄関周りが殺風景になる事があるため、改善に向けて検討したい。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・年に1度、環境調査を実施し、結果を参考にして対応している。 ・家庭的な雰囲気に配慮した設備や備品を使用している。 ・日差しが強い時には、カーテンで調整している。 ・季節毎に掲示物を作成し、掲示している。		・継続して取組んでいきたい。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホール内にソファを設置し、気の合った利用者同士が座れるスペースを確保している。		・継続して取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・入居時や入居後に、必要に応じて自宅から馴染みの物品を持ってきてもらうように説明している。</p> <p>・馴染みの物が少ない利用者もいるため、馴染みの物を作るように心がけている。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>・共有スペースにおいては、定期的に換気を行っている。</p> <p>・各居室へ湿温計を設置し、利用者に確認してから換気や室温調整を行っている。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・安全性に考慮し、必要な箇所に手すりを設置している。</p> <p>・車椅子や歩行器、シルバーカーを使用し安全に配慮している。</p>		<p>・ハード面での改善が必要な箇所を見直し、改善に向けて取組みたい。</p>
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>・希望者のみ居室の扉に表札をつけている。また、トイレや浴室に目印をつけている。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>・庭に花壇があったり、敷地内に畑を作り、種まきや苗植え、収穫を行っている。</p>		<p>・継続して取組んでいきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者と会話をした職員が気付きを記入する記録様式になっており、介護計画を作成するときのアセスメントに関連するようにしている。この事により、実際の記録に基づいた正確なアセスメントができ、よりタイムリーな介護計画を作成するように努めている。
- ・管理日誌は独自に作成した様式で、職員が情報を共有できるようになっている。
- ・職員一人ひとりがホーム内での役割を持っており、責任を持って取り組むような体制をとっている。
- ・経営者を含め職員の間人間関係が良好に保たれており、利用者や他の職員に対しても思いやりを持って対応するように心がけている。
- ・医師、看護師、薬剤師との良い連携が保たれている。
- ・有資格者の割合が多く、様々な視点で検討することができる。
- ・古民家を改装したホームである為、ハード面においても家庭的であり、馴染みやすい。